

# やまと 民俗への招待

鹿谷 熟

3月3日から4日にかけて、愛知県北東部の山間に伝わる奥三河の花祭りを見る機会を得た。舞台公演は大阪で2度ほど見たが、現地で見るのは初めてだった。奥三河3町村15カ所で11月から行なわれ、その最後が東栄町布川で、舞台は天王八王神社境内の集会所だった。

3日午後1時から翌日午前9時まで夜を徹して行われたが、柳田国男や折口信夫も泊まつたという旅館を予約したため、居続けて全体を見通した訳ではなかった。集会所は花祭り用の建物で、一部は十間でこれを舞廻とし、注連縄をめぐ

らし、中央にカマドが新たに築いてある。天井から湯蓋と呼ばれる5色の紙で作った天蓋を吊り下げ、ザゼチという文字や絵を切り抜いた半紙が四方に張りめぐらしている。当日の資料によると、まず神を迎える神事が14種、次に祭事として舞が6種、再び神事2種の後、深夜から朝にかけて舞が8種行われ、午前9時ごろに神を送る神事6種と、合計36種の神事と舞が行われる。

この中で子供や青年や女性が舞い、「山見鬼」が登場し、翁や獅子も出る。外から訪れた人もセ



## 花祭りに通じる心

一連の行事の中で特に興味を覚えたのは、神事をつかさどる世襲役の花太夫だった。小声で祭文を唱え、印を結んで所作をする。最後に自ら面を付け、床を踏んで鎧めの舞をする姿に強い印象を受けた。

この花祭りは、単にハナとも呼ばれた。稻穂からきたとする説や祭具の飾り付け説、天皇の慰靈祭の花山祭り説、常磐木を花と呼ぶ説などがあるが、実はよく分からぬといふ。稚児の舞を花の

10種の花を仮前に供える修二会が花会式と呼ばれている。異なる民俗の中に共通する心意があるよううに思える。花祭りに魅了されて通う者を「花狂い」というが、民俗における花をめぐって早くも花狂いにならう。

表)

(奈良民俗文化研究所代

花祭りで重要な役割を演じているのが湯立てで、これは奈良県でも行なわれている。湯立てする世襲の巫女ノネットンは「伊勢は天照大神宮様の花のおん御湯なり」と高らかに唱える。